

Japanese Utility Model Laid-Open No. 5-61052

Publication Date : August 10, 1993

Application No. : 4-6558

Filing Date : January 23, 1992

5 Applicant : Dai-Nippon Printing

Inventor : Masayasu HAYASHI

Title of the Device

Carton with Plastic Lid

Claim

- 10 1. A carton comprising a cardboard box and a plastic lid, characterized in that the lid comprises a ceiling part and a periphery part hanging down from the periphery of the ceiling part, the inner surface of the periphery part is brought into intimate contact with the outer surface of the box when the opening of the box is closed by the lid, and the ceiling part and the inner surface of the periphery part have a groove or a notch for easy
15 folding of the ceiling part and the periphery part upward.

Excerpts from the Detailed Description of the Device

Referring to Fig. 1, reference numeral 10 denotes a cardboard box. The box has an opening at its top. Upper edge 11 of the opening is folded inward. A groove 12 is formed at the periphery of the opening. Reference numeral 13 denotes a plastic
20 lid. The lid comprises a ceiling part and a periphery part 14 hanging down from the periphery of the ceiling part. The inner surface of periphery part 14 has a projection 15 which can engage with groove 12 of box 10.

Periphery part 14 of lid 13 is brought into intimate contact with the outer surface of the opening when the opening of box 10 is closed by lid 13. Further when
25 closed, projection 15 engages with groove 12. In this embodiment, projection 15 and groove 12 are provided at the rear part of lid 13 and box 10. The ceiling part of lid 13 has a groove 16 for folding of the ceiling part. Groove 16 is made thin so as to easily fold lid 13 upward.

Periphery part 14 has a notch 17 which is continuous with groove 16. Notch 17 assists easy folding of lid 13 along groove 16.

Reference numeral 18 denotes an adhesive tape. The rear part of lid 13 is fixed to box 10 by adhesive tape 18. Alternatively, entire periphery of lid 13 may be fixed to box 10 by adhesive tape 18.

According to the above embodiment, the opening of box can be reinforced by periphery part 14 of lid 13. Further, lid 13 can be easily opened while the rear part of lid 13 is maintained in its fixed state to box 10 since the ceiling part of lid 13 has groove 16, and projection 15 of lid 13 engages with groove 12. When disposal, box 10 and lid 13 can be easily separated.

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-61052

(43)公開日 平成5年(1993)8月10日

(51)Int.Cl.⁴

B 6 5 D 43/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 6540-3E

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平4-6558

(22)出願日 平成4年(1992)1月23日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72)考案者 林 正保

東京都新宿区市谷加賀町1丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

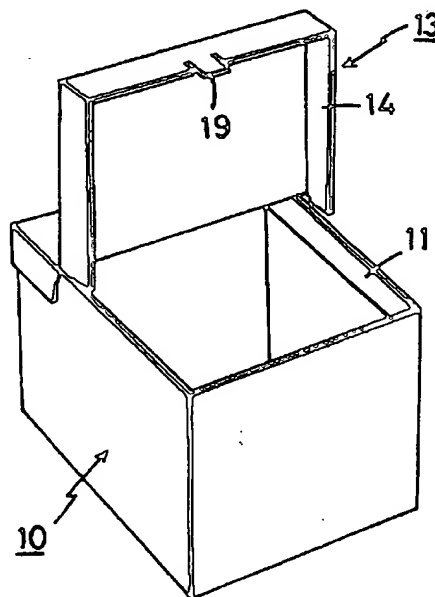
(74)代理人 弁理士 中川 周吉 (外1名)

(54)【考案の名称】 プラスチック製蓋付カートン

(57)【要約】

【目的】本考案は、使用後の廃棄時に紙製品とプラスチック製蓋とを容易に分離し得るカートンを目的とする。

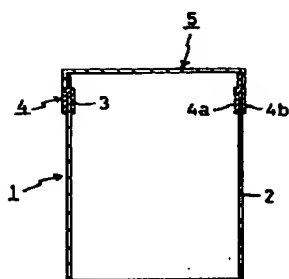
【構造】開口部の内側に折り込まれた上縁11を有する紙製箱10と、この箱10の開口部の外周面に密接することが出来る外周縁14を有するプラスチック製蓋13との組合せよりなり、前記箱10の開口部外周面に凹溝12を穿設し、かつ蓋13の外周縁に突起15を突設し、更に蓋13の所定位置に折曲用溝16を穿設して構成したプラスチック製蓋付カートンである。



(3)

実開平5-61052

【図9】



本考案に係るカートンは、前述の問題点に鑑み開発された技術であって、特に蓋の開閉を容易にし、廃棄の際には箱とプラスチック製蓋とを簡単に分離させることが出来、更に全体をコンパクトにクラッシュさせることが可能な全く新しい技術提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本考案に係るカートンは、前述の従来の問題点を根本的に改善した技術であってその要旨は、紙製箱と該箱の開口部に被蓋し得るプラスチック製蓋とよりなるカートンに於て、前記蓋の周辺縁には箱の開口部外周面に密接し得る内周縁が設けられ、かつ該蓋の天井面及びこれに接続する外周縁に折曲用溝或は切欠溝が設けられて構成されることを特徴としたプラスチック製蓋付カートンである。

【0006】

【作用】

本考案に係るカートンに於ては、上述の如く、プラスチック製蓋の周辺縁に箱の開口部の外周面に密接し得る内周縁が設けられているので、箱に蓋を被蓋した際には、該蓋の外周縁で箱の開口縁をその外側から支持して補強することが出来る。

また、本考案に係るカートンに於ては、蓋の天井及びこれに接続された外周縁に折曲用溝或は切欠溝が設けられているので、これ等の折曲用溝及び切欠溝を利用することによって、蓋の後部を箱の開口縁に固定したまま蓋を容易に開閉することが出来る。

【0007】

本考案に係るカートンは、上述の如く、紙製箱とプラスチック製蓋との組合せで構成されており、従来のように箱の開口部に開口枠を取付ける必要がないので、カートンを使用した後は、紙製箱とプラスチック製蓋とに夫々簡単に分離して廃棄することが出来る。

前記蓋の外周縁の内周面所定位置に、箱の開口部外周面に設けられた凹溝に嵌入し得る突起を突設した場合には、これ等の凹溝と突起とを相互に組合わせることによって、蓋を箱の開口部に強固に取付固定することが出来る。

れ、蓋13を折曲用溝16で折り曲げる際に、この外周縁14が邪魔をしないように構成されている。

18は粘着シールであって、この粘着シール18を用いて箱10に被蓋した蓋13の後部をより強固に固定することが出来るように構成されている。

この粘着シール18は、図2に示すように、箱10と蓋13との後部のみに貼着することも、或は箱10と蓋13との全周に亘って両者を相互に貼着することも可能である。

【0012】

上記実施例に於て、蓋13の前面中央部にはつまみ片19が突設されており、このつまみ片19を持って蓋13を容易に開閉することが出来るように構成されている。

上記つまみ片19は蓋13をシールする際にも利用することが出来る。

本考案に係る第1実施例のカーターの組立構成に当っては、図1乃至図4に示す如く、箱10の開口部に蓋13を当接した後、蓋13の外周縁を箱10の外周面に密接し、かつ蓋13の外周縁14に設けられた突起15を箱10に穿設された凹溝12内に嵌入して、該蓋13を箱10の開口部に被蓋固定することが出来る。

【0013】

次ぎに、第一実施例のカーターの蓋13を開口する場合には、図1に示すように、つまみ片19を持って蓋13に設けられた折曲用溝16のヒンジ作用及び外周縁14の切欠溝16の作用で蓋13の前部を徐々に上昇させて蓋13を開くことが出来る。その際に、蓋13と箱10との後部は、前記凹溝12と突起16との作用で強固に固着されているので、この後部は安定させたままで、蓋13の前側のみを開閉することが出来る。

【0014】

図5及び図6により、本考案に係るカーターの第2実施例を説明すると次ぎの通りである。

この第2実施例に示すカーターは、前述の第1実施例に示すカーターとは、次ぎの点で異なっている。

ける必要がないので、箱は容易に押しつぶして全体をコンパクトにすることが出来る等の特徴を有するものである。